

シリーズ調査「われら信州人」⑳

# 「自然と環境編」

## 第5回調査

### 報告書

(2020年6月15日～7月22日調査)

I	調査の目的・設計・回答状況	1
II	調査結果 概要	4
III	集計表	20
IV	全体・男女別集計	55
V	調査票	61
VI	特別レポート	69

\*新しい「階層格差」時代を考える  
——新しい階級・階層の構造——

東京大学名誉教授 飽戸 弘

\*身近な自然との接触が環境保全意識・  
行動に与える影響

埼玉県立大学教授 坂井博通



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

# ＜シリーズ調査「われら信州人」の主なテーマ＞

	I	II	III	IV	V
郷土・地域意識編	第1回 1994年11月調査	第6回 2000年8月調査	第11回 2008年3月調査	第16回 2013年5月調査	第21回 2018年6月調査
	・住みやすさ、住みにくさ	・住みやすさ、住みにくさ	・住みやすさ、住みにくさ	・住みやすさ、住みにくさ	・住みやすさ、住みにくさ
	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し、方向性
	・愛着感	・愛着感	・愛着感	・愛着感	・愛着感
	・住み続けたいか	・住み続けたいか	・住み続けたいか	・住み続けたいか	・住み続けたいか
	・県民として誇れるもの・自慢できるもの	・他県と比べて平均以上と思えること	・地域との関わり	・地域との関わり	・地域との関わり
生活編	第2回 1995年11月調査	第7回 2002年5月調査	第12回 2009年5月調査	第17回 2014年6月調査	第22回 2019年6月調査
	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度
	・普段感じている不安や悩み	・自由な時間の過ごし方	・自由な時間の過ごし方	・自由な時間の過ごし方	・自由な時間の過ごし方
	・自由な時間の過ごし方	・普段感じている不安や悩み	・普段感じている不安や悩み	・普段感じている不安や悩み	・普段感じている不安や悩み
	・隣近所との交際状況	・隣近所との交際状況	・衣・食のこだわり	・衣・食のこだわり	・テレビ、インターネット、新聞、食
	・今関心を寄せているもの	・お祈りや信心	・お祈りや信心	・お祈りや信心	・お祈りや信心
自然と環境編	第3回 1997年3月調査	第8回 2004年4月調査	第13回 2010年4月調査	第18回 2015年6月調査	第23回 2020年6月調査
	・信州の自然について	・季節の好き嫌い	・季節の好き嫌い	・季節の好き嫌い	・季節の好き嫌い
	・自然と人間の関係	・自然とのふれあい体験、野外活動	・郷土の表現	・郷土の表現	・自然とのふれあい体験、野外活動
	・信州の自然は守られているか	・ダム、リゾート開発の是非	・自然とのふれあい体験、野外活動	・自然とのふれあい体験、野外活動	・山岳高原観光地・長野
	・信州の自然景観について	・近隣からの環境被害	・ダム、リゾート開発の是非	・野生動物と被害への考え方	・野生動物と被害への考え方
	・10年前とくらべてどうか	・自然・生活環境で心配なこと	・身近な機関へ移動の手段	・開発と規制のあり方	・開発と規制のあり方
家族編	第4回 1997年12月調査	第9回 2005年10月調査	第14回 2011年4月調査	第19回 2016年6月調査	
	・家族と話す頻度	・家族と話す頻度	・家族と話す頻度	・家族と話す頻度	
	・結婚観	・結婚観	・結婚観	・結婚観	
	・家庭の役割	・家族・家庭の役割	・家族・家庭の役割	・家族・家庭の役割	
	・主導権を握るのは誰	・主導権を握るのは誰	・主導権を握るのは誰	・主導権を握るのは誰	
	・家庭生活に必要なもの	・老後の親と子	・老後の親と子	・老後の親と子	
教育編	第5回 1999年3月調査	第10回 2006年10月調査	第15回 2012年4月調査	第20回 2017年6月調査	
	・子供への接し方	・子供への接し方	・「長野県は教育県」と思うか	・「長野県は教育県」と思うか	
	・一芸、推薦入学の是非	・一芸、推薦入学の是非	・AO入試、推薦入試	・AO入試、推薦入試	
	・習い事について	・習い事について	・習い事について	・習い事について	
	・「長野県は教育県」と思うか	・教育と人生観	・教育と人生観	・教育と人生観	
	・学校の完全週五日制について	・長野県の進学環境	・国立大学の授業料無償化	・子どもの貧困	

# I 調査の目的・設計・回答状況

## ◆ 目的

長期シリーズ「われら信州人」調査は 1994 年、信州の人と暮らしを見つめ、郷土の特性を探ることを通じて、地域に根ざしたより良き明日を切り拓くことを願ってスタート。5つの分野－①郷土・地域意識 ②生活 ③自然と環境 ④家族 ⑤教育－の基軸テーマを循環させる方法を取っている。

「自然と環境編」は、1997 年、2004 年、2010 年、2015 年に続き、5 年ぶり 5 回目、「われら信州人」全体では 23 回目となる。

今回の調査は過去 4 回の調査からの継続質問を中心としつつ、レジ袋有料化への対応状況や、環境保全のための負担を長野県民がどのように考えているのかなどを探った。

調査の全般にわたり初回から、飽戸弘・東大名誉教授、坂井博通・埼玉県立大教授の監修を仰いでいる。

## ◆ 設計

▽調査対象	長野県内に住む 18 歳以上の男女 800 人
▽抽出方法	層化三段無作為抽出法。32 市町村の選挙人名簿から抽出
▽調査時期	2020 年 6 月 15 日～7 月 22 日
▽調査方法	郵送（一部ファクス回収）
▽調査地点	19 市 6 町 7 村の計 32 市町村 50 地点

## ◆ 回答状況

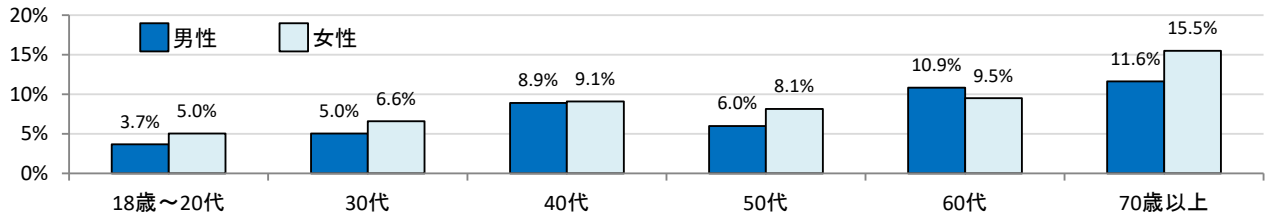
▽有効回答数	516 人（男性 238 人 女性 278 人）	回答率 64.5%
▽回答方法の内訳	郵送	474 (91.9%)
	ファクス	42 (8.1%)

<注> 図表のパーセント数字は小数点第 2 位を四捨五入。合計が 100 にならない場合がある。  
見出しと文中のパーセント数字は小数点第 1 位を四捨五入。

# 有効回答の内訳

## 【性別と年代】

	全体	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
合計	516	45	60	93	73	105	140
	100.0%	8.7%	11.6%	18.0%	14.1%	20.3%	27.1%
男性	238	19	26	46	31	56	60
	46.1%	3.7%	5.0%	8.9%	6.0%	10.9%	11.6%
女性	278	26	34	47	42	49	80
	53.9%	5.0%	6.6%	9.1%	8.1%	9.5%	15.5%

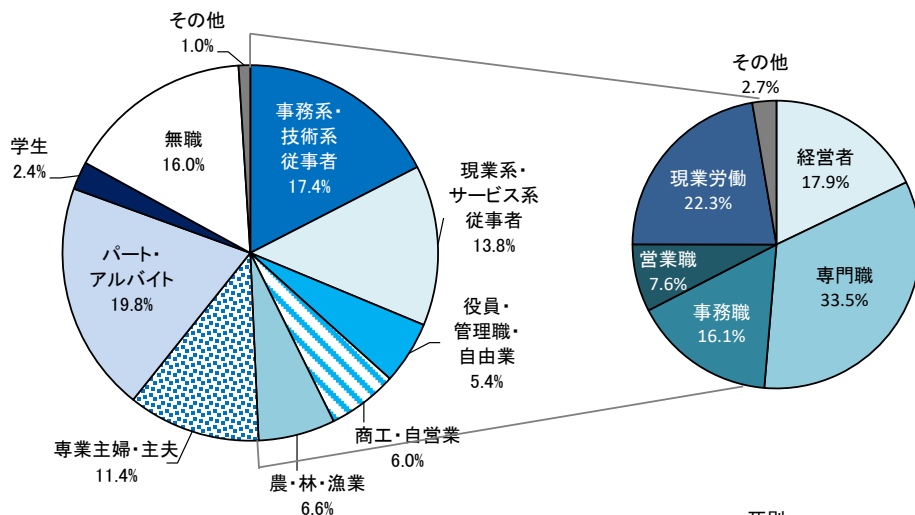


## 【職業】

①事務系・技術系従事者	87	17.4%
②現業系・サービス系従事者	69	13.8%
③役員・管理職・自由業	27	5.4%
④商工・自営業	30	6.0%
⑤農・林・漁業	33	6.6%
専業主婦・主夫	57	11.4%
パート・アルバイト	99	19.8%
学生	12	2.4%
無職	80	16.0%
その他	5	1.0%

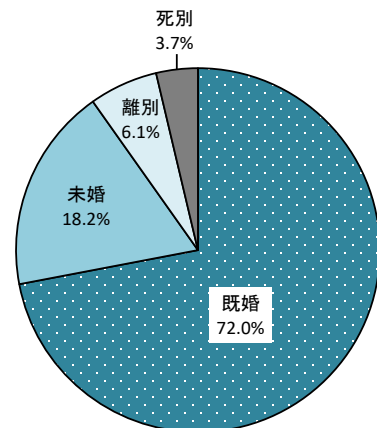
## 【①～⑤の分類】

経営者	40	17.9%
専門職(技能、資格などを保持)	75	33.5%
事務職	36	16.1%
営業職(販売、接客業など)	17	7.6%
現業労働(屋内外で作業、運転など)	50	22.3%
その他	6	2.7%



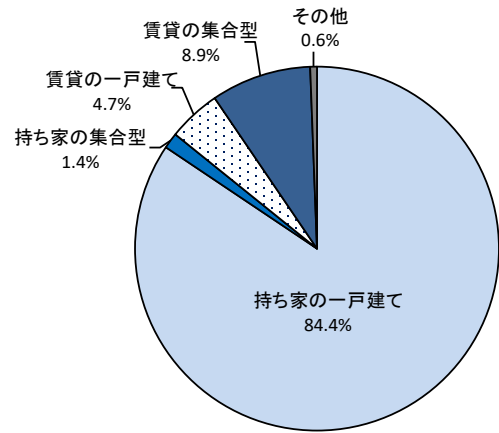
## 【結婚】

既婚	368	72.0%
未婚	93	18.2%
離別	31	6.1%
死別	19	3.7%



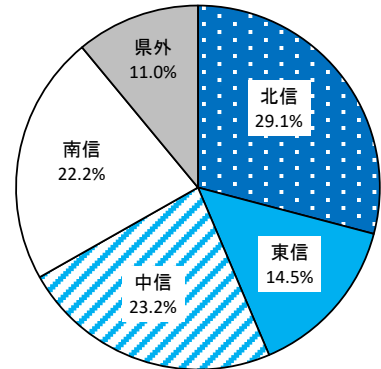
**【住居】**

持ち家の一戸建て	428	84.4%
持ち家の集合型	7	1.4%
賃貸の一戸建て	24	4.7%
賃貸の集合型	45	8.9%
その他	3	0.6%



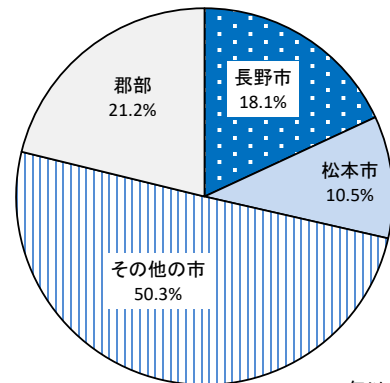
**【生まれた地域】**

北信	148	29.1%
東信	74	14.5%
中信	118	23.2%
南信	113	22.2%
県外	56	11.0%



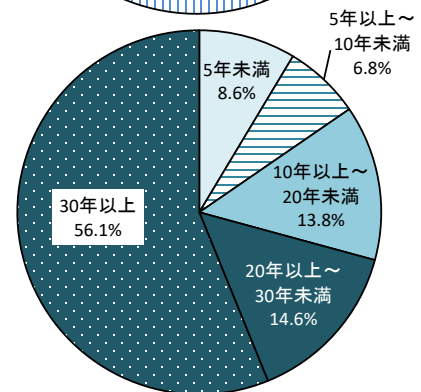
**【市郡】**

長野市	93	18.1%
松本市	54	10.5%
その他の市	259	50.3%
郡部	109	21.2%



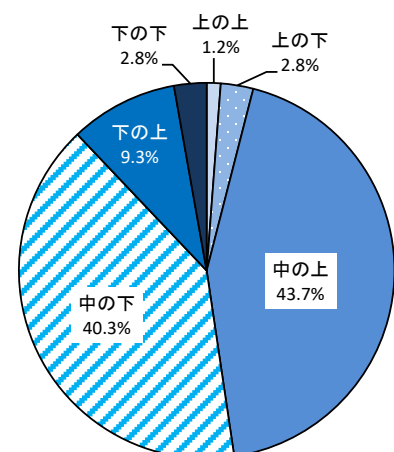
**【居住年数】**

5年未満	44	8.6%
5年以上～10年未満	35	6.8%
10年以上～20年未満	71	13.8%
20年以上～30年未満	75	14.6%
30年以上	288	56.1%



**【暮らしぶり】**

上の上	6	1.2%
上の下	14	2.8%
中の上	221	43.7%
中の下	204	40.3%
下の上	47	9.3%
下の下	14	2.8%



## II 調査結果 概要

有効回答 516 人

### 好きな季節

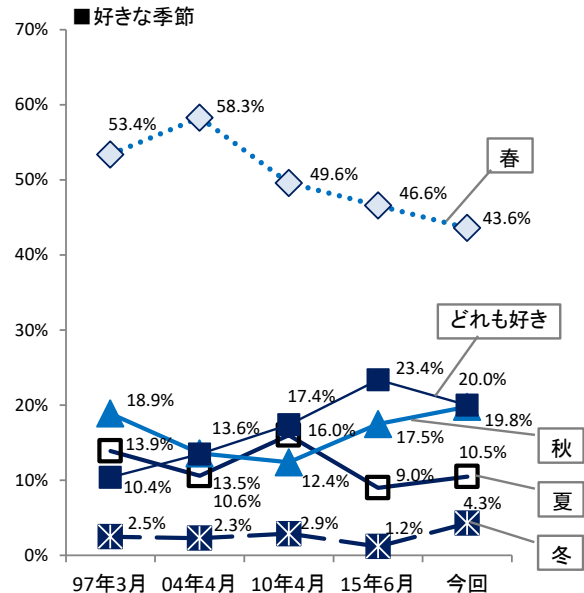
問1 あなたは、長野県に住んでいて、最も好きな季節はいつですか

#### ◆「春」44% 「夏」「秋」「冬」は微増

集計表 20 ページ

好きな季節は「春」が44%で最多。5回連続のトップだが最も高かった04年からは15ポイント低下した。「どれも好き」と「秋」が20%、「夏」が11%、「冬」が4%で続く。「春」と「どれも好き」は前回調査から3ポイント低下で、下位3項目は2～3ポイントの微増。

年代別にみると、60代は「春」が54%と半数を超えるが、40代以下は3割台。70歳以上は「どれも好き」が26%と高め。



### 嫌いな季節

問2 それでは、あなたが最も嫌いな季節はいつですか

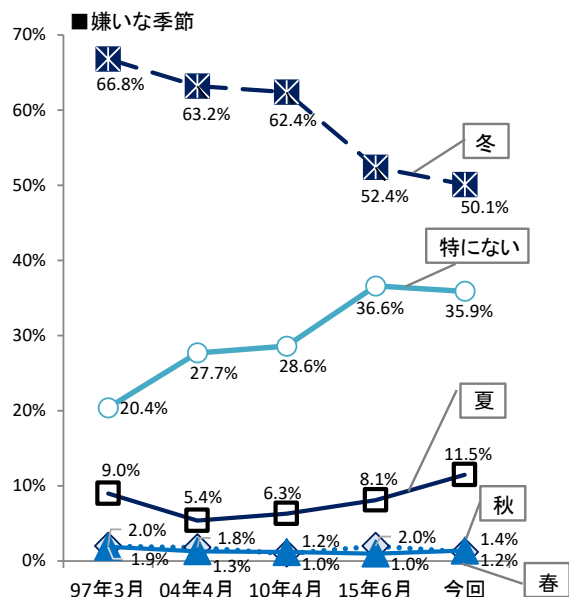
#### ◆「冬」50% 低下傾向

集計表 21 ページ

信州の厳しい「冬」を挙げる人が50%で最も高かった。好きな季節の「春」と同様に5回連続のトップだが、第1回調査(97年)からは17ポイント低下している。「特になし」が36%、「夏」が12%。「春」と「秋」は1%台。

過去の調査からの推移を見ると、温暖化現象を映すかのように「冬」は減少、「特になし」は上昇傾向。「夏」は04年調査の5%から微増が続いている。

年代別では70歳以上は「冬」が58%、18歳～20代は「夏」が23%と高め。



## 自然との接触

問3 あなたは、ここ数年の間に、次のことをしたことがありますか。あてはまるものを全てお答えください

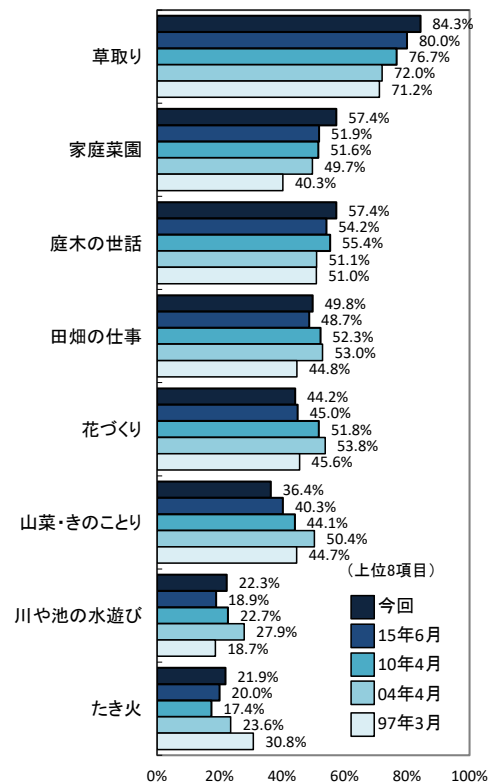
### ◆「草取り」84% 増加続く

集計表 22 ページ

「草取り」が84%で最も高く、「家庭菜園」と「庭木の世話」が57%、「田畑の仕事」が50%、「花づくり」が44%で続く。「草取り」と「家庭菜園」は回を追うごとに増えており、「草取り」は97年調査から13ポイント、「家庭菜園」は17ポイント増加した。一方、「花づくり」と「山菜・きのことり」は04年調査をピークに微減が続いている。

年代別では、「川や池の水遊び」と「昆虫・チョウ採集」は30代～40代の子育て世代で高い。「野原で花摘み」が30代で33%と突出している。

❖ 問3、問14については、78ページから坂井博通埼玉県立大学教授の特別レポート「身近な自然との接触が環境保全意識・行動に与える影響」があります。



## レジャー・スポーツ

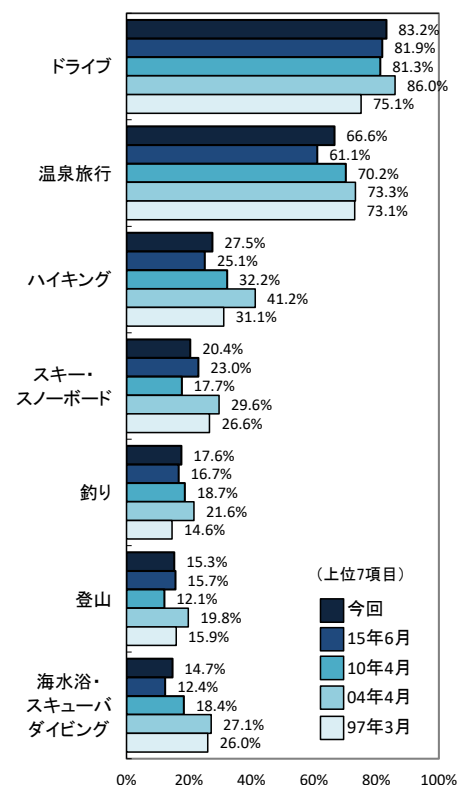
問4 あなたは、ここ数年の間に、次のことをしたことがありますか。あてはまるものを全てお答えください

### ◆「ドライブ」83%

集計表 23 ページ

トップは「ドライブ」の83%で「温泉旅行」が67%と上位2項目が半数を超えた。3番手以降は「ハイキング」(28%)、「スキー・スノーボード」(20%)、「釣り」(18%)と続く。前回調査と比べて順位に大きな変動はみられない。

年代別では「温泉旅行」は60代以上で7割を超え、「スキー・スノーボード」は40代の43%を筆頭に18歳～30代も3割超。30代～40代は下位の項目でも高めた。





## 長野のPR策

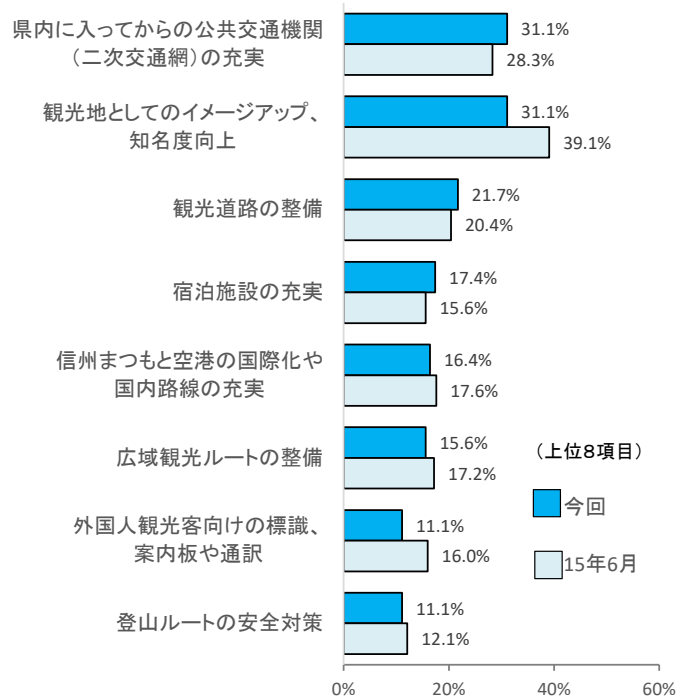
問5 あなたは、「山岳高原観光地・長野」を売り出すための具体策として、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、2つ以内に絞ってお答えください

### ◆「公共交通機関の充実」「イメージアップ、知名度向上」3割

集計表 24 ページ

「県内に入ってから公共交通機関の充実」と「観光地としてのイメージアップ、知名度向上」が31%で並ぶ。次いで「観光道路の整備」が22%、「宿泊施設の充実」が17%、「信州まつもと空港の国際化や国内路線の充実」と「広域観光ルートの整備」が16%前後で続く。前回調査と比べて「観光地としてのイメージアップ、知名度向上」が8ポイントダウンしているのが目立つ。

18歳～20代は「観光地としてのイメージアップ、知名度向上」を44%でトップに挙げる。30代は「信州まつもと空港の国際化や国内路線の充実」(29%)と「宿泊施設の充実」(27%)が高い。



## 野生動物と農業被害

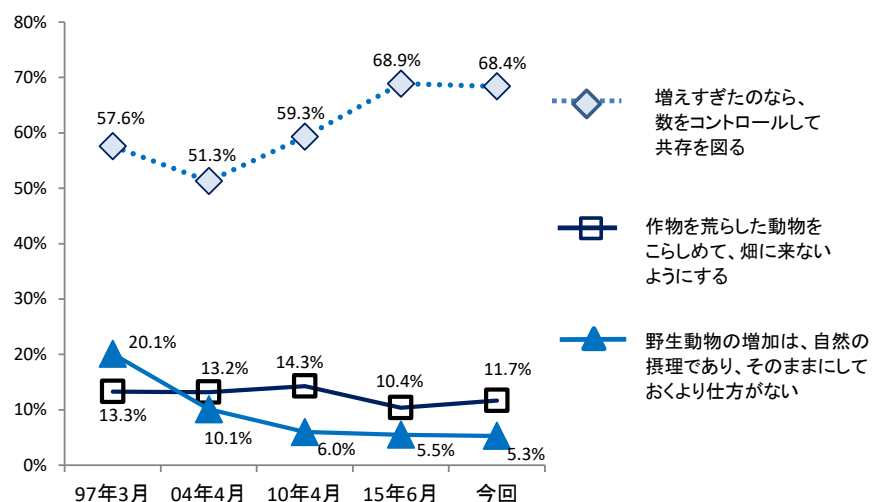
問6 あなたは、サルやシカなど野生動物が増えて、畑や果樹園を荒らし農家が困っている時、どうしたらよいと思いますか

### ◆「数をコントロール」68%

集計表 25 ページ

「増えすぎたのなら、数をコントロールして共存を図る」が68%と全体の3分の2を占める。「作物を荒らした動物をこらしめて、畑に来ないようにする」は12%、「野生動物の増加は、自然の摂理であり、そのままにしておくより仕方がない」は5%で、「何とも言えない・わからない」が15%。前回調査と比べてほぼ横ばい。

職業別では、役員・管理職・自由業は「数をコントロール」が93%、農・林・漁業は「動物をこらしめて、畑に来ないようにする」が24%と高い。





## 開発と規制

問7 あなたは、次のA~Cの「開発」について、どう思いますか

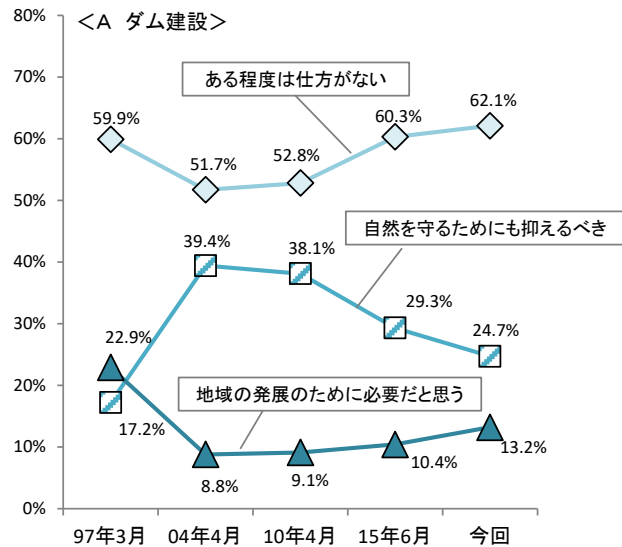
### ◆大型ショッピングモール「地域の発展のために必要」46%

集計表 26~27 ページ

#### A ダム建設

「ある程度は仕方がない」が62%で「自然を守るためにも抑えるべき」が25%、「地域の発展のために必要だと思う」が13%。前回調査と比べると「自然を守るためにも抑えるべき」が5ポイント減、「地域の発展のために必要だと思う」と「ある程度は仕方がない」が微増。「自然を守るためにも抑えるべき」は04年調査から15ポイント減少した。

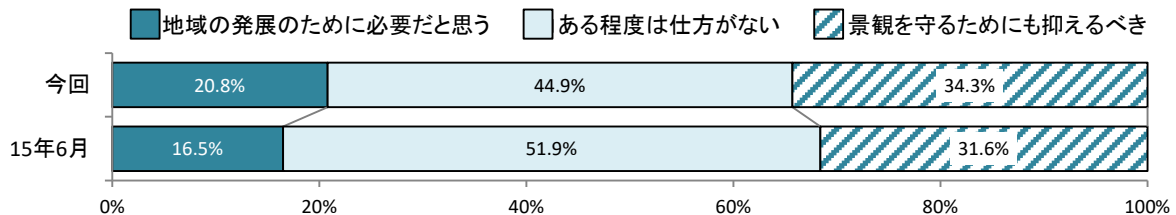
職業別では商工・自営業は「自然を守るためにも抑えるべき」が43%、役員・管理職・自由業は「地域の発展のために必要だと思う」が26%と高い。



#### B 市街地のマンション

「ある程度は仕方がない」が前回から7ポイント減の45%で、「景観を守るためにも抑えるべき」は3ポイント増の34%、「地域の発展のために必要だと思う」は4ポイント増の21%。

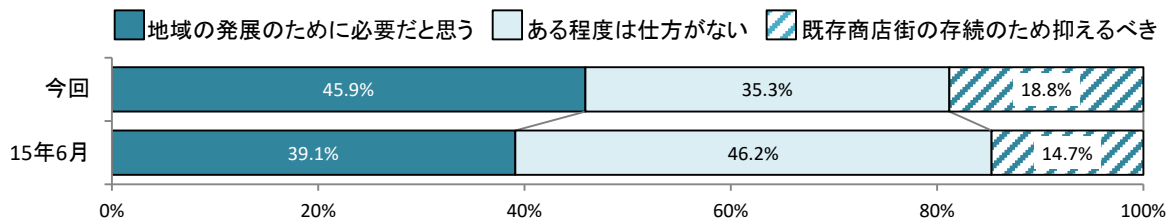
商工・自営業は「景観を抑えるためにも抑えるべき」を53%、役員・管理職・自由業は「地域の発展のために必要だと思う」を41%でトップに挙げる。



#### C 大型ショッピングモール

「地域の発展のために必要だと思う」が前回から7ポイント増の46%、「ある程度は仕方がない」が11ポイント減の35%で順位が逆転。「既存商店街の存続のため抑えるべき」が4ポイント増の19%。

「地域の発展のために必要だと思う」は現業系・サービス系従事者(59%)と役員・管理職・自由業(56%)、「既存商店街の存続のため抑えるべき」は商工・自営業(43%)で高い。



## 居住地への愛着感

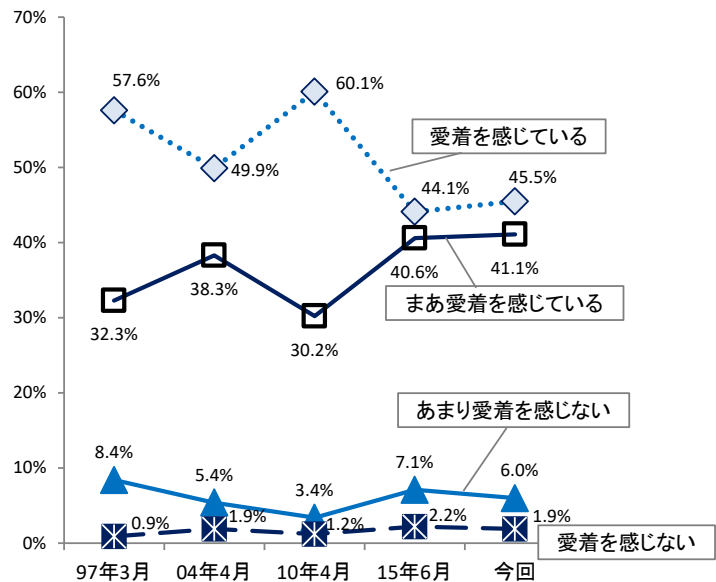
問8 あなたは、現在お住まいの地域に、どの程度愛着を感じますか

### ◆「愛着を感じている」46%

集計表 28 ページ

「愛着を感じている」は46%で、「まあ愛着を感じている」の41%と合わせて87%と多数を占める。「愛着を感じない」は2%、「あまり愛着を感じない」の6%で合計8%。前回調査と比べてほとんど増減はない。

地域別では中信で「愛着を感じている」「まあ愛着を感じている」の合計が92%と唯一9割を超える。



## 美観を損ねているもの

問9 あなたが、現在お住まいの地域の美観や環境を損ねていると思うものは何ですか。次の中から、3つ以内に絞ってお答えください

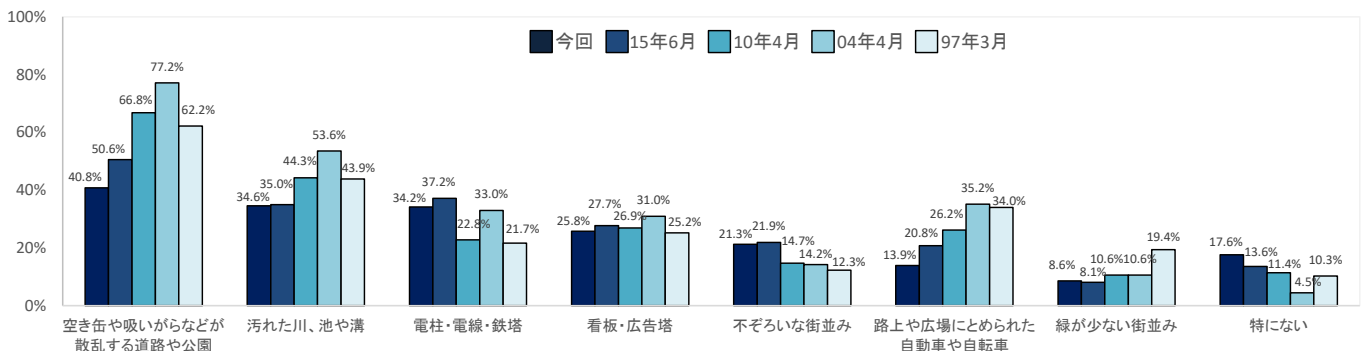
### ◆「空き缶や吸いがらなどが散乱する道路や公園」41%

集計表 29 ページ

「空き缶や吸いがらなどが散乱する道路や公園」が41%で最も多く、「汚れた川、池や溝」が35%、「電柱・電線・鉄塔」が34%で続く。前回と比べて「空き缶や吸いがらなどが散乱する道路や公園」が10ポイント、「路上や広場にとめられた自動車や自転車」が7ポイント減少した。

年代別にみると、18歳～20代は「空き缶や吸いがらなどが散乱する道路や公園」が58%、「汚れた川、池や溝」が53%と高い。60代は「電柱・電線・鉄塔」を42%でトップに挙げている。

「特にない」は2004年調査の5%から微増が続き、今回調査は18%。



## 環境面の被害

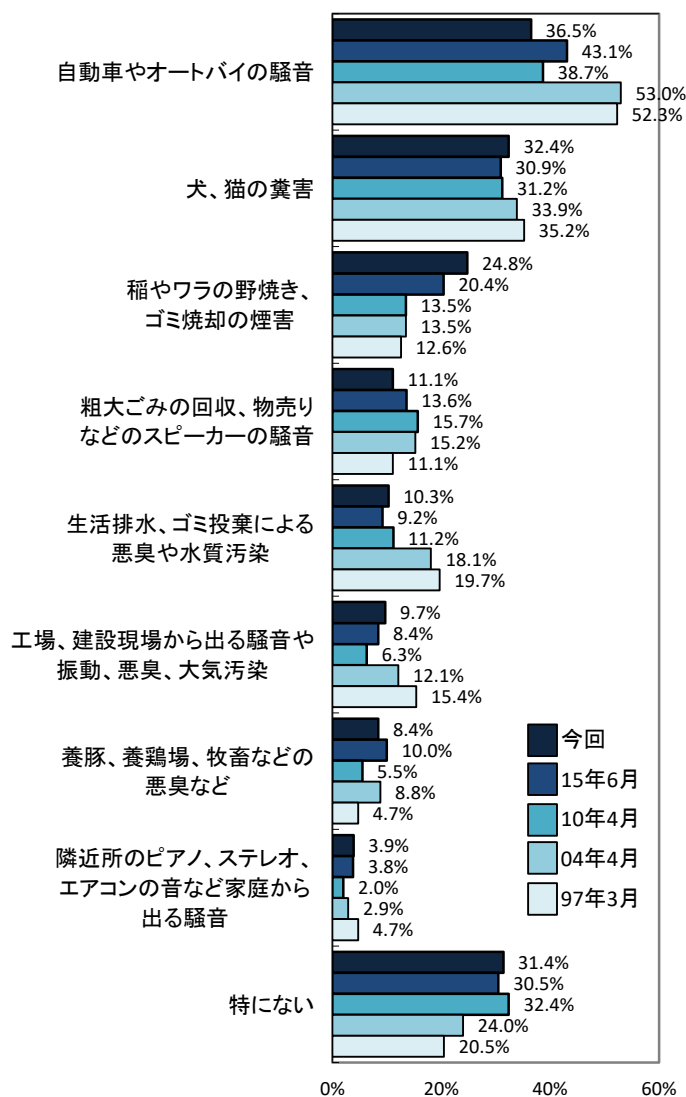
問10 あなたは、ここ数年の間に、次のような被害を受けたことがありますか。頻度の多いものを、3つ以内に絞ってお答えください

### ◆「自動車やオートバイの騒音」「犬、猫の糞害」3割超

集計表 30 ページ

「自動車やオートバイの騒音」が37%で最多で、「犬、猫の糞害」が32%、「稲やワラの野焼き、ゴミ焼却の煙害」が25%で続く。前回と比べて増減が目立つのは「稲やワラの野焼き、ゴミ焼却の煙害」の4ポイント増加、「自転車やオートバイの騒音」の7ポイント減少の2項目。

職業別では、農・林・漁業は「自動車やオートバイの騒音」(49%)、「犬、猫の糞害」(42%)、「粗大ごみの回収、物売りなどのスピーカーの騒音」と「生活排水、ごみ投棄による悪臭や水質汚染」(ともに21%)で高い。商工・自営業と事務系・技術系従事者は「稲やワラの野焼き、ゴミ焼却の煙害」が37%と高め。



長野県世論調査協会の会員の皆様は、報告書の全文をご覧いただくことができます。

入会の申し込み、お問い合わせは、[こちらへ](#)